

市河晴子 いちがわ はるこ 隨筆家。明治二十九年十二月二十一日生れ、昭和十八年十一月五日歿（一八六六—一九四三）。法學者徳積陳重の二女。大正五年英語學者市河三喜子いちがわ ともきの二男一女を儲く。夫と共に歐洲へ遊び、昭和十一年支那事變勃發の際へは、國民後援として單身アメリカへ派遣せられ、遊説の勢めた。

金子元臣の學への小説を罷へて、文筆にと長け、『愛ちやん』(昭和二年二月二十日研究社)を始め、夫と共著『歐米の博々』(昭和八年八月二十日研究社)、『ENGLISH PILGRIMAGE』(Translated and Edited with Notes by SHIGEO INOUE / 昭和十五年一月二十日研究社)、『米國の旅・日本の旅』(昭和十五年二月一日研究社)等と著はした。『手向の花束』市河晴子 遺稿『三葉』(昭和二十年一月十五日市河三喜子編輯)がある。

